

業務部速報



No. 13

発行 23. 8. 29

JR東労組 業務部

申1号 第42回定期大会発言等に基づく申し入れ 第1回 団体交渉を行う! ②

組合：経営側だけでなく、労使でつくり上げてきた安全文化である。「事故撲滅のためには何よりも「事故から学ぶ」姿勢が大切である。私たちはこうした基本認識のもとに、事故に際しては責任追及ではなく原因究明を第一とする大きな流れをつくり出し、効果的な対策が講ぜられるよう努めてきた。…」と1992年に「事故撲滅をめざして」という標題で、その後も「安全宣言」についても労使で一致し締結している。この考えは変わるものではない!

会社：「安全計画2023」では、表現は違うが「失敗から学ぶ」としている。原因究明をしっかりとしないと対策は表面的なものになってしまう。原因究明をして対策を立てるとい認識は変わるものではない。

組合：グループ会社やパートナー会社、協力会社でも待避誤りが多発している。作業時間や検査周期なども背後要因としてあるのではないかと考える。また、作業時間が足りない中で作業を行うことで、作業品質も低下してしまう。安全軽視、作業優先にもなっていく。

安全第一

会社：協力会社が起こした事故とするのではなくJR東日本グループとして取り組んでいく。パートナー会社とは定期的に意見交換もしている。電気ネットワーク部門で表彰制度も作り、何よりもお客さま、仲間の命を第一に、作業品質を下げない取り組みを進めていく。

組合：線路内落とし物拾得作業において、事象が相次ぎ、7/21から3日間で周知、その間列車抑止での拾得作業と通達が出された。しかし、「タブレット見てください」という周知では伝わらない。

会社：見張り員が見張りに専念していなかったために、あわや重大死傷事故になりかねなかった。そのために3日間での再周知を通達した。見張り員は作業員の命を預かっているということを認識してもらうために教育、訓練を繰り返ししていかなければならない。短期間の周知で現場が苦勞したことは理解している。「仕事の本質」が伝わるように各支社・本部と連携してフォローしていきたい。



組合：周知やタブレットの議論があったが、コミュニケーションをとること、会話が重要だ。

会社：社員が気付いていること、発信できることが大事。会話は重要。そのことも踏まえて「安全計画2023」の延長線でレベルアップしていくことができる5か年計画をつくっていきたいと考えている。

安全を守り、つくるのは人である!人を大切にすることがベースだ!!

安全で安心して働ける職場をめざし、
全組合員で安全哲学の再確立に向けて、
職場から実践していこう!

※ 1項の議論終了。次回は2項から議論します!